

立田先生との思い出

宝来 大樹

「絶対に中学校教員になる」この思いを確固たるものにしてくれたのは、立田先生と過ごした神戸学院大学での生活です。

立田先生と出会ったのは、大学1年次の教職入門の授業でした。不安でいっぱいの中、優しく親身になって、ユーモアある授業をしてくださったのを今でも覚えています。また、立田先生には、授業を通して、大勢の前で発表する機会をたくさんいただきました。教職入門での研究発表、卒業研究発表会でのゼミ代表としての発表と、試行錯誤しながら発表した経験が、教師として勤務する中での基盤となっていることと確信しております。

2年次に入る前、新型コロナウイルスの感染が猛威を振るいました。それまで当たり前を送っていた学生生活が非日常となり、学校に行けず、オンラインで授業を受ける日々。友達とも会えず、「大学を辞めよう」と思ってしまったときもありました。そんなときでも、いつも画面の向こうでは笑顔の立田先生が授業をしてくださいました。

「みなさん元気〜？」と私たち学生を気遣ってくれる立田先生、ユーモアある面白い授業をしてくださる立田先生、そんな先生がいてくれたからこそ、私はオンラインでの学生生活を送ることができたと思っています。

そして、やっと学校に行けるようになった3年次、立田先生から「神戸市スクールサポーター」を勧めていただきました。それまでは教職の理論を学んでいただけでしたが、それが実践へとつながった瞬間でした。初めは「先生」と呼ばれることに慣れず、戸惑いもありましたが、「先生に教えてもらって分かった!」「先生が来てくれる日が楽しみ!」という子どもたちの言葉で、「絶対に中学校教員になる」という思いが確固たるものとなり、実際の学校現場で活動した1年半は、今の私の原点となっています。

3年次、4年次のゼミを立田先生と過ごし、教員採用試験の対策に力を注いだ時間は、私にとってかけがえのないものであり、教員採用試験現役合格をつかみ取れたのも、親身になってアドバイスをしてくださった立田先生のおかげです。

立田先生のような教員にはまだまだほど遠く、未熟な私ですが、いつか立田先生を越えられるくらい生徒から信頼される教員になれるよう、日々精進してまいります。

立田先生、今まで長い間本当にお疲れ様でした。これからもどうぞお身体に気をつけてお過ごしください。